

企画展「トカラの歩き方」

県立博物館

トカラ列島とは

令和4年3月19日（土）から6月5日（日）まで、博物館本館1階企画展示室で企画展「トカラの歩き方」を開催しています。



【企画展ポスター】

トカラ列島にはたくさんの見所があり、その中でも、ユネスコの無形文化遺産に登録されている「悪石島のボゼ」は有名です。ボゼは悪石島で旧暦の盆時期に現れる仮面神です。赤土の泥がついた棒を島民に擦り付けることで、先祖の霊とともに集落に集まっていた悪霊が追い払われ、島が災いから守られるとされています。



【悪石島のボゼ】

この企画展で紹介しているトカラ列島は、屋久島と奄美大島の間に連なる有人島7島と無人島5島からなります。それぞれの島には手つかずの自然や特徴的な文化があります。それらを紹介するとともに、これまで、博物館がトカラ列島で収集した資料を展示しています。

ボゼは、島に自生する植物の「ピロウ」「リュウキュウチク」「タブノキ」を身につけています。人々が身の回りにある自然を生かして、民俗文化を受け継いできたことを確認できる重要な無形文化遺産です。

トカラ列島の生物

トカラ列島には固有種や特徴的な生物が多数見られますので、いくつかご紹介します。

口之島だけに自生するユリ科のタモトユリは白く美しい花が真上を向いて咲く珍しいユリです。



【タモトユリ】

他のユリには無い特徴を持つことから、カサブランカに代表される園芸品種作出のための交配種として高い人気がありました。そのため、乱獲され、野生状態では、ほぼ見られなくなってしまいました。現在では、栽培地が設けられ、自生地回復の試みが続けられています。

中之島には鹿児島県の天然記念物に指定されているトカラウマが飼育されています。トカラウマは、体高が100~120cm程度の非常に小型の馬です。

外来馬（西洋種）と交雑することなく残っている数少ない日本在来馬の一つで、非常に貴重です。

また、口之島には野生状態の牛が見られます。この牛は100年以上前から、口之島の山野に棲息しており、トカラウマ同様、外来牛（西洋種）の影響を受けていない、日本の在来牛の特徴を現在に残す貴重な存在です。



【トカラウマ】



【野生化牛】